

同 松本 半四郎

同 横田 長右エ門

歌 猪狩 佐助

笛 横田 久次郎

右之通太郎弟子ニ免し間仮弟子取申候共被免也間鏑候以上

百野 吉田 久次 (花押)

若松 権八 殿

とあり、さらに吉田久次の即興の歌とも思われるものが、前記の免状と一緒に巻物となつて残っている。

硯や手につけて ほけきやう山経千部万部おきやうあそばす寺ぞ けやふまいりきてこれのきやくてん

み申せば四方四面のこしきまつり

一此宿をみ申せば日本一のかくべつの事

一まいりきてこなたで御酒を下さること

一たいこはやめて御酒の御礼申せ我らがつれ

一おしゃくにはなにをかのとしろかねのほんくわに金が八つゝみ

百野 吉田 久次 (花押)

海道は六尺二分の道なれば歌をしらすはいざ孫より

我がとののひやういのすけは尺八ろんでうたれたすそはおまたふさはきりにもまれてきて尺八はおもし